

「対命題機能」を持つ現代朝鮮語の分析的な形について 認識性と頻度 性の観点から

著者	高地 朋成
雑誌名	韓国語学年報
号	15
ページ	23-58
発行年	2019-04
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00001616/

「対命題機能」を持つ現代朝鮮語の分析的な形について —認識性と頻度性の観点から—

高地朋成
天理大学

1. はじめに

本研究は、現代朝鮮語(以下、朝鮮語)のモダリティー(modality)研究の一環を担うものであり、「対命題機能」を持つ分析的な形(analytic forms)¹⁾を考察の対象とする。ここで言う「対命題機能」とは、その名の通り「命題(proposition)を対象として機能する」ことを意味する。既に、Palmer(2001)による見解を通じて広く知られているように、モーダルな機能(modal functions)を持った文法形式(grammatical forms)には、命題を対象に機能するものと出来事(event)を対象に機能するものが存在する。前者は、命題が表す内容の事実性について言及したり、その事実性を裏付ける証拠について言及するものである。一方、後者は、述語(predicates)を中心として表される出来事を対象に機能し、当該の出来事の実現または未実現について、出来事の参加者(participants)に関連付けて述べるものである。同様の見解は、Halliday and Matthiessen(2004)でも述べられており、彼らは、本稿で言う「対命題機能」に相当するものとして、「情報の交換」を目的とするモダライゼーション(modalization)を設定している。また、日本語学の分野では、仁田他(2000)における「命題めあてのモダリティー」と呼ばれるもの、朝鮮語学の分野では、野間(1988)による「対事態モダリティー」と呼ばれるものがあるが、これらも本稿で言う「対命題機能」について、モダリティーの観点から論じたものである。

朝鮮語において「対命題機能」を持つ分析的な形は、‘II-ㄷ 것이다’, ‘{I-ㄴ/I-ㄹ/I-ㅁ} 모양이다’, ‘II-ㅁ지도 모르다’等のように、命題の事実性(factual status)に対する話し手の判断(speaker’s judgement)を表すものがほとんどであるため、主に認識的モダリティー(epistemic modality)の観点から考察されてきた。しかしながら、「対命題機能」を持つ分析的な形の機能的な様相を把握するためには、多角的な接近が必要である。そこで、本稿では認識的モダリティーに加え、証拠性(evidentiality)及び頻度性(usuality)の観点から、「対命題機能」を持つ分析的な形について考察し、各分析的な形の機能的側面について、既存の研究よりも一歩踏み込んだ形で記述することを目指す。

第2章では本稿における基本概念について概観し、第3章では考察対象及び考察方法について述べる。第4章では各分析的な形について考察結果を提示する。最後に第5章では今後の課題について述べる。

本稿は、実際の言語資料に基づいた考察を行うため、韓国の国立国語院(국립국어원)が開発したコーパスである『21世紀世宗計画(21세기 세종계획)』から得た例文を根拠に、議論を展開することにする。しかしながら、適切な例文が見つからなかった場合は、朝鮮語インフォーマントの協力を得て作成した例文を提示することにする。

2. 基本概念

ここでは本稿における基本的な概念である認識性 (epistemicity) と頻度性 (usuality) について、主に一般言語学 (general linguistics), 類型論 (typology), そして機能文法 (functional grammar) における見解を基に概説することにする。

2.1. 認識性とは

認識性 (epistemicity) とは, Boye (2010) によって提唱された術語であり, 認識的モダリティー (epistemic modality) と証拠性 (evidentiality) を含む, より大きな意味論的なカテゴリー (semantic category) のことを意味する。元来, 認識的モダリティーと証拠性は, 個々に独立したカテゴリーとして存在している。例えば Palmer (2001: 24) は, 以下 (1) のように述べている。なお, Palmer (2001) が「証拠的モダリティー (evidential modality)」という術語を用いているのは, 証拠性をモダリティーの下位カテゴリー (subcategory) と見なしているからに他ならない²⁾。

- (1) ... with epistemic modality speakers express their judgements about the factual status of the proposition, whereas with evidential modality they indicate the evidence they have for its factual status.

(Palmer 2001: 24)

話し手は認識的モダリティーによって命題の事実性に対する判断を表し, 証拠的モダリティー (evidential modality) によって命題の事実性に対する証拠を示す。

(引用者訳)

また, de Haan (2005: 380) は認識的モダリティーと証拠性について以下の (2) のように述べている。

- (2) Evidentiality *asserts* the evidence, while epistemic modality *evaluates* the evidence.

(de Haan 2005: 380)

認識的モダリティーが証拠 (evidence) について「評価する (evaluate)」ものであるのに対し, 証拠性は証拠について「言及する (assert)」ものである。

(引用者訳)

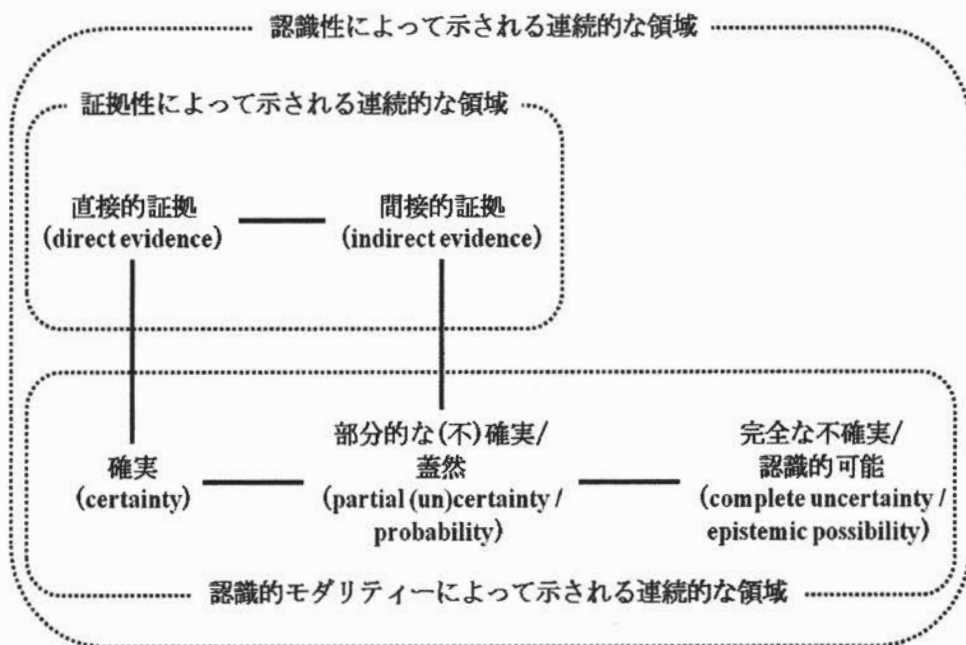
認識的モダリティーと証拠性は, 命題の事実性を扱うという点で共通しているが, 命題の事実性に関する証拠の扱い方においては異なる。つまり, 両者はそれぞれ命題の事実性について, 異なる角度から記述を行うことを意味する。

認識的モダリティーと証拠性について, 朝鮮語における例を見てみよう。以下の例文 (3) で, 話し手は「聞き手が入ってきた時の (いつもとは違う) 異常な様子」を観察し, 「(聞き手は) 気分が良くない」ということについて不確かさを含意した主観的判断を下している。すなわち, 例文 (3) における ‘II-ㄴ 모양이다’ の機能について, 認識性の観点から少なくとも 2 つの特徴を観察する

ことが出来る．1 つは，認識的モダリティーを表すため，‘II-ㄴ 모양이다’が機能しているという点にある．話し手にとって「聞き手の気分」というものは，正確に把握し難いものであり，断定的に述べることは不可能である．そこで，話し手は‘II-ㄴ 모양이다’を用いることで，「(聞き手は)気分が良くない」という命題内容が事実であろうという可能性を示しているのである．また別の 1 つは，‘II-ㄴ 모양이다’を用いる場合，話し手は命題の内容の事実性を裏付けるための証拠を前提として要求するということである．(3)の背景には，聞き手の表情や言動等について，話し手が観察したということが前提として要求されている．ここで前提となっている観察行為は，話し手が‘II-ㄴ 모양이다’を用いて示した推量判断を裏付ける根拠(証拠)なのである．

- (3) 너 오늘 기분이 안 좋은 모양이다. 들어설 때부터 뭔가 좀 이상했어. <21 세기 세종계획/BEXX0014.txt>
お前，今日は気分が良くないみたいだ．入ってきた時から何かちょっと変だった．

上の例文(3)のように，同一の言語現象について認識性の 2 つの観点(すなわち，認識的モダリティーと証拠性)から考察が可能である．Boye(2010)が認識的モダリティーと証拠性を認識性という上位カテゴリーに帰属させているのは，両者が共に命題の事実性に関する情報の伝達を目的とした機能を有しているからに他ならない．参考までに，以下に Boye(2010: 17)による認識的モダリティーと証拠性の関係を表した意味地図(semantic map)を示すことにする．例文(3)で用いられた‘II-ㄴ 모양이다’の場合は，「部分的な(不)確実/蓋然」の領域と「間接的証拠」の領域にまたがって機能していると思われる．



〈図 1: 認識的モダリティーと証拠性の関係(Boye 2010: 17)〉

関係性は認められるものの、認識的モダリティーと証拠性は一旦は区別されるべきものである。認識的モダリティーと証拠性が似て非なるカテゴリーであることを今一度確認するため、以下において両カテゴリーについてもう少し概観することにする。

2.1.1. 認識的モダリティーとは

モダリティーの下位分類についての見解は研究者によって異なるが、認識的モダリティーを設定することについては、筆者の知る限り、異論は無いように思われる。但し、認識的モダリティーを「不確実(uncertainty)」の領域のみを扱うものと捉える立場を取る研究者と、「確実(certainty)」の領域から「不確実」の領域までを含んだものと捉える立場を取る研究者の間で、見解に違いがある。なお、本稿は後者の立場を取るものである。

まずは、認識的モダリティーを「不確実」の領域に限定して捉える研究者の見解を概観してみよう。Kearns(2000)では、認識的モダリティーが認識的必然性(epistemic necessity)と認識的可能性(epistemic possibility)の2つに分けられている。認識的必然性とは、以下の例文(4a)のように、話し手が持つ知識から導き出される必然的な結論を表すものである。一方、認識的可能性とは、以下の(4b)のように、確信が無いことについての推測を表すものである。

(4) 英語における認識的モダリティーの例文 (Kearns 2000: 53-54)

- a. The dinosaurs must have died out suddenly.
恐竜は突如として絶滅したに違いない。
("Given what we already know, it must be the case that the dinosaurs died out suddenly."「我々が既に知っていることから考えるに、恐竜は突如として絶滅したということは、事実であるに違いない。」に言い換えが可能) (引用者訳)
- b. There might be intelligent life in deep space.
はるか遠い宇宙に知的生命が、存在するかも知れない。
("It is possible that there is intelligent life in deep space."「はるか遠い宇宙に知的生命が存在する可能性がある。」に言い換えが可能) (引用者訳)

Palmer(2001: 24-25)によれば、認識的モダリティーは以下の(5)のように分類されると言う。英語では助動詞の‘may’が(5a)「推測」に、‘must’が(5b)の「演繹」に、そして‘will’が(5c)の「仮定」を表す際に用いられるのが一般的である。英語の場合のみを考慮した場合、認識的モダリティーは「不確実さ」の領域のみを扱うものと捉えても問題が無いように思われる。

(5) 認識的モダリティーの下位分類 (Palmer 2001: 21-25)

- a. 推測(speculative): 不確実さを表す判断
- b. 演繹(deductive): 観察可能な証拠からの推量
- c. 仮定(assumptive): 一般的に知られていることからの推量

次に、認識的モダリティーを「確実」の領域から「不確実」の領域までを含んだものと捉える研究者の見解を概観してみよう。Boye(2010: 10)では、以下の(6)のように述べられている。このように、認識的モダリティーは「不確実」だけではなく「確実」の領域までも含むものであると考える立場もある。

- (6) Epistemic expressions are taken to comprise linguistic item and constructions (grammatical as well as lexical) that express either source of information or degree of (un)certainly, or both. (Boye 2010: 10)

認識的な表現³⁾は、情報源または(不)確実さの程度、あるいはそれら両方を表す言語的な項目や構成(語彙的なものだけでなく文法的なものも含む)から成る。(引用者訳)

既に上の<図 1>で示したように、認識性の観点から認識的モダリティーと証拠性の関係を考慮すれば、認識的モダリティーにおいて「確実」の領域も扱われるべきであると考えられる。

また Halliday and Matthiessen(2004: 116)では、「モダリティーは不確実の領域を解釈する(modality construes a region of uncertainty)」と述べられているものの、Halliday and Matthiessen(2004: 618-619)において、彼らが示した認識的モダリティーは、蓋然性(probability)の高低、すなわち「確実(certain)」、「蓋然(probable)」、「可能(possible)」の3つの段階から成るものであり⁴⁾、「確実」から「不確実」に至る領域を含んでいるものと解釈される。

仮に、認識的モダリティーを「不確実」の領域のみを扱うものと定義した場合、朝鮮語における分析的な形のうち幾つかのもの(例えば‘I-는 것이다’, ‘II-ㄴ 것이다’, ‘I-는 법이다’等)が、モダリティーの議論において扱えなくなるという問題が生じてしまう。しかしながら、‘I-는 것이다’, ‘II-ㄴ 것이다’, ‘I-는 법이다’は、認識的モダリティーに関連づけて議論されて然るべき文法形式である。その理由は、第1に、‘I-는 것이다’, ‘II-ㄴ 것이다’, ‘I-는 법이다’は命題内容の事実性に対する話し手の主観的判断を表すために機能するからである。第2に、「不確実」の領域を担当する他の分析的な形と共に、パラディグマティックな関係(paradigmatic relation)を成すからである。例えば、「推量」を表す機能を持つ‘II-ㄴ 것이다’を認識的モダリティーにおいて扱うことについては、異論が無いであろう。であるとすれば、‘II-ㄴ 것이다’と類似した統辞的構造を持ち、形態的に対立を成す‘I-는 것이다’と‘II-ㄴ 것이다’も認識的モダリティーの議論の中で考察されるべきである。また、‘I-는 법이다’は、‘I-는 것이다’との比較において、名詞の‘법’と‘것’が弁別的であるという点で、形態的に対立をしている。よって、‘I-는 법이다’もやはり認識的モダリティーに関連づけて議論されるべきもののなのである。本稿では、認識的モダリティーを「(不)確実さに関係づけて命題内容の事実性に対する主観的な判断を下すもの」と定義することにする。

2.1.2. 証拠性とは

まずは、証拠性(evidentiality)についての Aikhenvald(2006: 320)による定義を以下の(7)に示すことにする。下の(7)のように、「証拠性は、れっきとした動詞の文法カテゴリーである」と Aikhenvald(2006)が主張するのは、タリアナ語(Tariana)をはじめとした、証拠性の体系を備えた言語にその根拠を置くものである。例えば、タリアナ語の場合、話し手は情報源(source of information)の類型を動詞の活用形態を通じて、義務的に明示化させなければならない(Aikhenvald 2004: 2)。

- (7) Evidentiality is a verbal grammatical category in its own right, and it does not bear any straightforward relationship to truth, the validity of a statement, or the speaker's responsibility. Neither is evidentiality a subcategory of epistemic or any other modality. (Aikhenvald 2006: 320)
- 証拠性(evidentiality)は、れっきとした動詞の文法カテゴリーであり、真実や陳述の確実性、または話し手の確信度とは直接的な関係を持たない。また証拠性は、認識的モダリティやその他のモダリティの下位カテゴリーでもない。(引用者訳)

しかしながら、全ての言語において証拠性を文法カテゴリーとして設定することが出来るのか疑問である。現実には、以下の(8)のように Cornillie(2009: 45)が述べていることを考慮すべきである。

- (8) the functional domain of evidentiality is present in most languages, and hence may be considered a language universal. (Cornillie 2009: 45)
- 証拠性の機能的な領域は、ほとんどの言語において確認することが出来、それゆえ、機能的な側面での証拠性は、おそらく、言語の普遍的特徴である。(引用者訳)

以下の(9)は、Aikhenvald(2007: 211)で提示されたものであり、証拠性について論じる際に、必要な情報源の類型である。タリアナ語のような証拠性の文法カテゴリーが確立している言語では、下の(9)のような情報源の類型に従って、動詞の形態が変化するのが特徴である。

- (9) 情報源の類型 (Aikhenvald 2007: 211)
- a. 視覚(Visual): 目撃を通じて得た情報を扱う。
 - b. 知覚(Sensory): 聴覚、味覚、嗅覚等の知覚を通じて得た証拠を扱う。
 - c. 推論(Inference): 視覚や触覚等を通じて得た証拠もしくは結果に基づいた判断のこと。
 - d. 仮定(Assumption): 知覚的証拠以外の証拠(論拠や一般的な知識等)に基づいた判断のこと。
 - e. 報告(Reported): 情報の出処が明白でない伝達のこと。

f. 引用(Quotative): 情報の出处が明白な伝達のこと.

朝鮮語では文法的な手段として終止形語尾の‘-구나’, ‘-네’, ‘-더라’等, 蓋然性接尾辞の‘-ㄹ-’, 分析的な形の‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’, ‘II-ㄷ 것이다’, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’, ‘I-다고 말하다’, ‘名詞-(이)라고 하다’等によって証拠性が表されると考えられる⁵⁾. これらのうちのほとんどが, ムード形式(modal forms)である. すなわち, 朝鮮語では, 一部のムード形式によって証拠性が表されるのが一般的であると言えるであろう. しかしながら, 証拠性を表すための文法形式が, 文の形成において必須の要素となっているタリアナ語とは異なり, 朝鮮語は必ずしもそのような特徴を有していない. よって, 文法範疇としての証拠性を設定することについては慎重にならざるを得ない⁶⁾. 本稿では, 証拠性を文法形式や語彙形式の機能的特徴を把握するための意味論的なカテゴリーの 1 つであり, 語彙形式や文法形式を通じて「命題の事実性を裏付ける証拠の情報源を表すもの」として見なす立場を取ることにする.

2.2. 頻度性とは

まずは Thompson(1996: 57)による説明を以下の(10)に示すことにする.

- (10) If the commodity being exchanged is information, the modality relates to how valid the information is in terms of probability or usuality.

(Thompson 1996: 57)

交換される事物(commodity)が情報である場合, モダリティーは, 蓋然性(probability)⁷⁾または頻度性(usuality)の観点から当該の情報がどれほど確実なのかについて説明する. (引用者訳)

上の(10)における頻度性という概念は, 当該の情報がどれ程の頻度で事実であるのかを示すためのものである. なお Halliday and Matthiessen(2004: 618-619)によれば, 頻度性は「稀(sometimes)」、「頻繁(usually)」、「恒常(always)」の 3 つの連続的な段階に区別されると言う. Halliday and Matthiessen(2004: 147)によれば, 英語の場合, 頻度性は助動詞の‘will’や副詞語の‘usually’等によって表されると言う.

朝鮮語において頻度性がどのように表されるのかについて, 以下に幾つか例文を通じて確認してみよう. 例文(11a~11d)を通じて把握が可能なおおり, 朝鮮語の場合, 頻度性は副詞語や認識的モダリティーの機能を有する文法形式によって表される. (11a)では, 時間的総称性(temporal generic)を表す副詞語の‘언제나(いつでも)’と「普遍の真理」や「一般的事実」を表す場合に用いる分析的な形の‘I-는 법이다’⁸⁾が用いられており, 命題内容が恒常的に事実であることを表すために機能している. また(11b)では, 常ではないが 8~9 割程度の頻度で命題内容が事実であることを示すために副詞語の‘십중팔구(十中八九)’が用いられており, これに分析的な形の‘I-기 십상이다’⁹⁾が共起して用いられている. そして(11c)では命題内容の事実性が比較的低いことを表すために副詞語の‘때로는’(時には)が用いられ, (11d)では比較的高い頻度性を示すために副

詞語の‘흔히’(よく)が用いられている. なお(11c)及び(11d)では, 分析的な形の‘II-ㄷ 것이다’¹⁰⁾が用いられている. このことから推察するに, 「推量」を表す‘II-ㄷ 것이다’は, 共起する副詞語によって, 命題に対する頻度性の程度の調整が可能であると思われる.

- (11) a. 동정심 뒤에는 언제나 일종의 경멸 같은 것이 숨겨져 있는 법이다. <21 세기 세종계획/BREO0088.txt>
同情心の裏にはいつでも一種の輕蔑のようなものが隠れているものだ.
- b. 여기서 기가 센 여자들은 십중팔구 점술가들에게 ‘팔자가 세다’ 또는 ‘남자로 태어났어야 한다’는 말을 듣고 오기 십상이다. <21 세기 세종계획/5BA01E07.txt>
ここで氣が強い女達は, 十中八九, 占術家達に「運命が強い」だの「男として生まれるべきだった」という言葉を聞いてくるに決まっている.
- c. 때로는 그렇게 하는 것이 결과적으로 우리의 국익에도 도움이 되는 경우도 있었을 것이다. <21 세기 세종계획/BA92A012.txt>
時にはそのようにするのが結果的に我々の国益にも役に立つ場合もあったであろう.
- d. 이와 유사한 방법으로 재산을 확보하는 현상은 흔히 있었을 것이다. <21 세기 세종계획/3BI50001.txt>
これと類似した方法で財産を確保する現象はよくあったであろう.

3. 考察の対象及び方法

本稿は, 「対命題機能」を有する分析的な形について, 認識性と頻度性の観点から考察を行うことを目的とする. 出来る事なら, 全ての分析的な形を対象に考察を行うべきだが, 本稿は試論的な性格を帯びた論考であるため, 以下の(12a~12d)に示した分析的な形に限定して, 考察を進めることにする. これらの分析的な形を選択した理由は, 他の分析的な形に比べ例文の数が多いためである.

- (12) 本稿の考察対象
- I-는 법이다
 - II-ㄷ 것이다
 - {I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다
 - {I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다

(12a~12d)の各分析的な形について, まずは, 終止形語尾との共起関係を把握することで, 基本的な特徴を考察し, 次に, 各種の副詞語との共起可否, 仮定条件表現との共起可否, 総称性(genericity)を帯びた主語との共起可否等につ

いて考察した後、当該の分析的な形について、認識的モダリティー、証拠性、頻度性の観点から見た場合の機能的特徴について整理することにする。以下の第4章では、各分析的な形ごとの考察結果を示す。

4. 考察

上記の(12a～12d)で示した分析的な形について、認識性(認識的モダリティー及び証拠性)と頻度性の観点から考察を行うため、各分析的な形の統辞的特徴に根拠を置きつつ、機能的な特徴を浮き彫りにしたいと思う。

4.1. I-는 법이다

まずは、終止形語尾との共起関係を考察することで‘I-는 법이다’の基本的な特徴を把握することにする。以下の(13)が示すように、‘I-는 법이다’は直説法の終止形語尾との共起が可能であるが¹¹⁾、推量法、目撃法、意志法、命令法、勧誘法の終止形語尾¹²⁾との共起は不可能である。‘I-는 법이다’に意志法、命令法、勧誘法の終止形語尾が後続出来ないのは、指定詞‘이다’の持つ本来の統辞的特徴が‘I-는 법이다’においても維持されているからに他ならない。注目すべきは、‘I-는 법이다’と推量法及び目撃法の終止形語尾の結合が成り立たないという統辞的現象である。

例文(13a～13f)において共通する命題は、「하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있다(天が崩れても這い出る穴がある)」つまり「窮すれば通ず」という意味の格言である。格言とは「普遍の真理」や「一般的事実」を簡潔な言葉で数世代に渡って語り継がれてきたものである。既に이양희(2005), 이금희(2012), 다카치(2018)において明らかにされたように、‘I-는 법이다’は「普遍の真理」や「一般的事実」を表す場合に用いられる。よって格言命題(gnomic proposition)と自然に共起することが出来るのである。

(13b)において‘I-는 법이다’と推量法の‘II-ㄴ까’の結合が不可能な理由は、両形式間の機能的特性の調和が取れないためである。박재연(2006: 213)によれば、推量法の‘II-ㄴ까’は「聞き手の蓋然性判断を問う用法を持つ」と言う。このような‘II-ㄴ까’の機能は「普遍の真理」や「一般的な事実」を表す‘I-는 법이다’の持つ本質的な特性と相反する。

(13) ‘I-는 법이다’と終止形語尾との共起関係

類型	直説法	推量法	目撃法	意志法	命令法	勧誘法
共起の可否	○	×	×	×	×	×

【根拠となる例文】

- a. 하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있는 법이다.

<21 세기 세종계획/2CJ00046.txt>

天が崩れても這い出る穴があるものだ(窮すれば通ずるもの

だ)。

- b. *하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있는 법일까?¹³⁾

<非文, 21 세기 세종계획/BREO0093.txt>

天が崩れても這い出る穴があるものだろうか(窮すれば通ずるものだろうか)。

- c. *하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있는 법이더라.

<非文, 作例>

天が崩れても這い出る穴があるものだったよ(窮すれば通ずるものだったよ)。

- d. *하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있는 법일게. <非文, 作例>

- e. *하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있는 법이십시오.

<非文, 作例>

- f. *하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 있는 법이십시다.

<非文, 作例>

また, 이정민他(2000: 367)によれば, 格言命題では命題の内容が「無時間的(timeless)もしくは全時間的(omnitemporal)である」と言う。(13a)のように, 格言命題を対象に‘I-는 법이다’が機能し得るという事実は, この文法形式には時間的局所限定性(temporal localization)¹⁴⁾が欠如していることを意味する。このことを踏まえて(13c)における現象を説明してみよう。

目撃法の終止形語尾には, 共通して‘I-더-’が含まれている。高地(2017: 37)によれば, ‘I-더-’は「話し手が直接経験した出来事を根拠に, 発話時において言及される内容の事実性を裏付ける機能を有する」ものである。つまり, ‘I-더-’を通じて表される内容は, 過去のある時点及び場所において, 話し手が直接経験したものでなければならない。このことは‘I-더-’が時間的局所限定性を有することを意味している。したがって, (13c)における‘I-는 법이다’と目撃法の終止形語尾との結合が不自然になるのである¹⁵⁾。

‘I-는 법이다’に時間的局所限定性が欠如していることは, 以下の例文(14)を通じても確認が可能である。例文(14a, 14b)が示すとおり, ‘I-는 법이다’は, ‘언제나(常に)’や‘어느 경우든(どの場合でも)’といった副詞語との共起が可能である。これは, ‘I-는 법이다’に前節する命題が, 特定の時間及び場面に拘束されないことを証明している。

- (14) a. 사람이 하는 일에는 언제나 가짜가 있는 법이다.

<21 세기 세종계획/3BH40009.txt>

人が行うことには常に偽物があるものである。

- b. 그렇다곤 하더라도 어차피 인생의 매사는 어느 경우든 한번에 완전한 해결을 볼 수 없는 법이니까.

<21 세기 세종계획/4BE01007.txt>

そうとは言ってもどうせ人生の事ごとは, どの場合でも一度に完全な解決を見ることは出来ないものであるから。

また興味深いのは, ‘I-는 법이다’が総称的(generic)な特性を持つことである。このことは, 以下の例文を通じて確認が可能である。다카치(2018: 107)が述べ

また, ‘I-는 법이다’は‘아마도(おそらく)’や‘틀림없이(間違い無く)’等のような確かさの程度を表す副詞語との共起が不可能である反面, ‘일반적으로(一般的に)’や‘대체로(総じて)’といった普遍性を表す副詞語との共起が可能である。これは, 命題の内容が恒常的に事実であることを示す‘I-는 법이다’の機能に影響を受けるためであると考えられる。

(18) a. *하늘이 무너져도 솟아날 구멍이 아마도 있는 법이다.

<作例, 非文>

b. *걸로 드러나는 것은 틀림없이 병산의 일각에 지나지 않는 법이다.

<作例, 非文>

c. 일반적으로 자기의 사회 경제적 지위에 알맞은 생활 형태란 긴 시간에 걸쳐 축적되어 형성되는 법이다.

<21 세기 세종계획/2CH00020.txt>

一般的に自身の社会経済的地位に合う生活形態とは, 長い時間に渡って蓄積され形成されるものである。

d. 매우 절실한 욕구에 의해 시작한 일은 대체로 후회가 없는 법이다.

<21 세기 세종계획/BRHO0402.txt>

非常に切実な欲求によって始めたことは, 総じて後悔が無いものである。

上で考察した内容を基に, 認識的モダリティー, 証拠性, 頻度性の観点から ‘I-는 법이다’の特徴について整理すると, 以下の(19)のとおりである。‘I-는 법이다’は, 認識的モダリティーと頻度性の機能的特徴を持った分析的な形であると言える。一方, ‘I-는 법이다’は, 目撃法の終止形語尾, 直説法詠嘆形の終止形語尾の‘I-군(요)’や‘I-구만’等といった証拠性の機能を有する文法形式との結合が不可能なため, 証拠性の機能を持つとは思われない。

(19) ‘I-는 법이다’の機能的特徴

観点	機能的特徴	根拠
認識的 モダリティー	确实	確かさの程度を表す副詞語と共起不可能. 普遍性を表す副詞語と共起可能. 総称性を表す副詞語と共起可能. 「普遍の真理」や「一般的事実」を表す. 推量法の終止形語尾と結合不可能.
証拠性	該当無し	一般的な知識や常識, 真理等をそのまま言い表すに過ぎない. 目撃法の終止形語尾と結合不可能. 直説法詠嘆形の終止形語尾と結合不可能.
頻度性	恒常	「恒常」を表す副詞語と共起可能. 時間的局所限定性の欠如. 命題内容が恒常的に事実であることを示す.

4.2. II-ㄷ 것이다

周知の如く, ‘II-ㄷ 것이다’は, 「意志」及び「推量」を表す分析的な形であるが, 本稿では「対命題機能」を対象に考察を行うという性格上, ‘II-ㄷ 것이다’が「推量」を表す場合に限定し, 議論を展開することにする。

以下の(20)が示すように, ‘II-ㄷ 것이다’は, 直接法の終止形語尾¹⁸⁾との共起のみ可能であり, 推量法, 目撃法, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾との結合は不可能である。

まず, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾が共起しないのは, ‘II-ㄷ 것이다’の構成要素の1つである指定詞‘이다’の本来の統辞的特徴に起因するものである。また, 機能的な側面からも, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾が共起しない理由を説明することが出来る。‘II-ㄷ 것이다’によって表される「推量」は, 認識的モダリティーに関連したモーダルな意味(modal meanings)である。一方, 意志法, 命令法, 勧誘法によってそれぞれ表される「意志」, 「命令」, 「勧誘」という意味は, どれも参加者志向モダリティー(participant-oriented modality)に関連したモーダルな意味である。既に, 類型論研究(typological study)においてモダリティーの連鎖構成(multiple modal construction)を扱ったNauze(2008)によって明らかにされているように, 参加者志向モダリティーを表す文法形式に, 認識的モダリティーを表す文法形式が後続することは可能であっても, その逆は不可能である。参加者志向モダリティーは, 出来事の実現または未実現について, 参加者に関連付けて言及する客観的な性格のものであるのに対し, 認識的モダリティーは, 命題の事実性についての話し手の判断を表す主観的なものである。客観的性格を有する参加者志向モダリティーは, 主観的性格を有する認識的モダリティーの作用領域に含まれ得る。したがって, 「推量」を表す‘II-ㄷ 것이다’は, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾を後続させないのである。

(20b)で, ‘II-ㄷ 것이다’と推量法の終止形語尾‘II-ㄷ까’の結合が不可能なのは, ‘II-ㄷ 것이다’の「推量」の機能と‘II-ㄷ까’の「蓋然性判断を問う」機能が調和しないためである。既に話し手が推量判断を下した内容について蓋然性判断を問うことは成立しないのである。

(20) ‘II-ㄷ 것이다’と終止形語尾との共起関係

類型	直説法	推量法	目撃法	意志法	命令法	勧誘法
共起の可否	○	×	×	×	×	×

【根拠となる例文】

- a. ‘퀴리 부인’을 모르는 사람은 없을 것이다.

<21세기 세종계획/4BJ01001.txt>

「キュリー夫人」を知らない人はいないだろう。

- b. *‘퀴리 부인’을 모르는 사람은 없을 것일까? <作例, 非文>
 c. *‘퀴리 부인’을 모르는 사람은 없을 것이더라. <作例, 非文>
 d. *‘퀴리 부인’을 모르는 사람은 없을 것일게. <作例, 非文>
 e. *‘퀴리 부인’을 모르는 사람은 없을 것이십시오.

<作例, 非文>

- f. *‘귀리 부인’을 모르는 사람은 없을 것이십시다.

<作例, 非文>

(20c)が示すとおり, ‘II-ㄷ 것이다’が目撃法の終止形語尾‘I-더라’との結合が成り立たない. 既に高地(2017: 39-41)が指摘しているように, ‘II-ㄷ 것이다’によって表される「推量」は, 必ずしも話し手の直接経験に基づく情報源の明示を要求しないのに対し(例文(21)¹⁹⁾), ‘I-더라’に含まれた‘I-더-’は, 話し手が直接経験した事柄に基づいて, 命題内容の裏付けを行うことを前提として要求する. このため, ‘II-ㄷ 것이다’と目撃法の終止形語尾との結合が成り立たないのである.

- (21) a. *여기저기에서 언어들은 정보에 의하면 자연보호에 한해서
만은 북한을 믿어도 될 것이다. <作例, 非文>
b. *공문을 보면 최루탄 발사 훈련은 한 번에 그치지 않을 것
이다. <作例, 非文>

先に(9)で示したとおり, Aikhenvald(2007: 211)は, 証拠性の観点から「推量」を「推論(inference)」と「仮定(assumption)」に区別している. 田中(2017: 5)によれば, 「推論」とは「知覚的推量(perceptual inference)」であり, 「仮定」とは「概念的推量(conceptual inference)」であると言う. 例えば, 「道が濡れている」等の直接観察が可能な状況(具体的な兆候や痕跡)に根拠を置いて, 「どうやら雨が降ったみたいだ」と判断を下す場合は「推論」に該当する. 一方, 「Aは雨が降ると来ない」という前提知識が設定され, 「Aが現在来ていない」という結果が存在している状況で, 「どうやら雨が降ったんだろう」と判断を下す場合は「仮定」に該当する. このような田中(2017)の見解に従って考えた場合, 直接観察(直接経験)に基づく情報源の明示を要求しない‘II-ㄷ 것이다’の「推量」の用法は「仮定」, すなわち「概念的推量」の類型に該当すると言える.

既に野間(1990: 50)において明らかにされてるように, ‘II-ㄷ 것이다’は現実とは異なる状況について推量する「反事実的仮想」を表す場合によく用いられる. 以下の例文(22a, 22b)では, いずれも副詞語の‘만일(万が一)’または‘만약에(もしも)’と仮定条件を表す‘II-면’または‘I-ㄴ다면’が従属節において用いられ, ‘II-ㄷ 것이다’が用いられた主節と共起しており, 命題内容が実際の状況とは異なることを前提とした話し手の主観的な判断内容を表している.

- (22) a. 만일 이러한 기계인간들이 등장하면 자연세계는 산업화
이래 겪었던 것과는 비교도 되지 않을 정도의 엄청난
변화를 겪을 것이다. <21세기 세종계획/4BB97104.txt>
万が一このような機械人間が登場すれば, 自然社会は産業化
以来経験したこととは比較にもならないほどの凄まじい変化
を経験するだろう.
b. 만약에 미래가 낙관적이기만 한다면 미래를 위한 준비는
필요가 없을 것이다. <21세기 세종계획/BRJ00446.txt>
もしも未来が楽観的でしかないなら, 未来のための準備は必要
が無いだろう.

上でも述べたように，証拠性の観点から見た場合，‘II-ㄷ 것이다’は「概念的推量」，すなわち「仮定」の類型に該当する．上記の例文(22a, 22b)における「反事実的仮想」の用法は，話し手による論拠や話し手自身が持つ知識に根拠を置いた「概念的推量」である．また，以下の例文(23a~23c)が示すように，‘예를 들어 ~의 경우(例えば~の場合)’，‘가령 + I-다면(仮に~だとすれば)’や‘가정한다면(仮定するとすれば)’等のように，ある特定の条件を設定する機能を有する言語表現との共起が可能であることも，‘II-ㄷ 것이다’の証拠性の機能が「仮定」(「概念的推量」)の類型に当てはまることを証明している．

- (23) a. 예를 들어 노인성 치매에 걸린 환자의 경우 몸의 세포는 상당 부분 노화됐을 것이다.

<21 세기 세종계획/BRH00401.txt>

例えば老人性認知症に罹った患者の場合，体の細胞は相当部分老化しているだろう．

- b. 가령 해외기업에서 아르바이트를 해 본 경험이 있다면 입사지원서에 남과 차별되는 내용으로 이목을 끌 수 있을 것이다.

<21 세기 세종계획/7BB03B17.txt>

仮に海外企業でアルバイトをした経験があるとすれば，入社志願書に他人と異なる内容で注目を引くことが出来るだろう．

- c. 사람의 정신 체계를 기의 체계로 가정한다면 ‘정기(精氣)’는 ‘호기(豪氣)’나 ‘조기(粗氣)’보다 맑을 것이다.

<21 세기 세종계획/2CC00118.txt>

人の精神の体系を気の体系として仮定するとすれば，「精氣」は「豪氣」や「粗氣」より清いだろう．

次に確かさの程度を表す副詞語との共起について見てみよう．既に다카치(2016: 106-107)で指摘しているように，‘II-ㄷ 것이다’は，確かさが低・中・高程度の副詞語との共起が可能である(例文(24a~24c))．これはつまり，‘II-ㄷ 것이다’によって表される「推量」は，共起する副詞語によって，その確かさの度合いを如何様にも調整可能であることを意味する．‘II-ㄷ 것이다’そのものによって，命題内容の確かさが，決定されるわけではないのである²⁰⁾．

- (24) a. 어쩌면 말만 안 했다 뿐이지 집사람에게도 많은 불만이 있었을 것이다.

<21 세기 세종계획/CH000092.txt>

ひょっとしたら言わなかっただけであって，妻にも沢山の不満があっただろう．

- b. 아마도 디지털 콘텐츠 중에는 저작권법으로 보호되는 것도 적지 않을 것이다.

<21 세기 세종계획/5BA01A10.txt>

おそらくデジタルコンテンツの中には著作権法で保護されるものも少なくないだろう．

- c. ㄱ선생이 그 자리에 있었더라면 틀림없이 교장을 반박했을 것이다.

<21 세기 세종계획/BRG00350.txt>

K 先生がその場にいたとしたら間違いなく校長に反駁しただろう。

頻度性の観点から見た場合、以下の例文(25a)が示すように、‘II-ㄷ 것이다’は普遍性を表す副詞語の‘일반적으로(一般的に)’との共起が可能である。またこの場合、共起する主語は総称性を有しているのが特徴的である。これは先に見た‘I-는 법이다’の特性と共通するものである。

- (25) a. 일반적으로 중앙집권화된 제국은 살아남을 수 없을 것이다.
 <21 세기 세종계획/BA91A108.txt>
一般的に中央集権化された帝国は生き残ることが出来ないだろう。
- b. 인륜에 어긋나는 비인간적인 행위에 대해 놀부를 질책하는 사람도 있을 것ियो, 간혹 그의 특이한 성격에 호기심을 보이는 사람도 있을 것이다.
 <21 세기 세종계획/BCCX0014.txt>
 人倫に背く非人間的な行為についてノルブを叱責する人もいるだろうし、時には彼の特異な性格に好奇心を見せる人もいるだろう。
- c. 어떤 영화 작가가 자신의 온 힘을 기울여 영화 한 편을 제작한다고 하면 그가 만드는 영화는 늘 같을 수밖에 없을 것이다.
 <21 세기 세종계획/BHXX0065.txt>
 ある映画作家が自身の全ての力を注いで映画 1 篇を製作するとすれば、彼が作る映画は常に同じであるほかないだろう。

しかしながら、例文(25b, 25c)が示すように、一方で‘II-ㄷ 것이다’は‘간혹(時には)’といった低程度の頻度、‘늘(常に)’といった高程度の頻度を表す副詞語と共起しつつ、一部の特定のな集団もしくは個人についての推量判断を表す場合にも用いられる。

結局のところ、頻度を表す副詞語との共起によって、命題内容の事実性に関する頻度性が調整されることはあっても、‘II-ㄷ 것이다’自体によって命題内容が事実と見なされる頻度性が、決定されるわけではない。

上で考察した内容を基に、‘II-ㄷ 것이다’の特徴について整理すると以下の(26)のとおりである。‘II-ㄷ 것이다’は認識的モダリティー、証拠性、頻度性に跨って機能する分析的な形であると言える。

(26) ‘II-ㄷ 것이다’の機能的特徴

観点	機能的特徴	根拠
認識的 モダリティー	蓋然 可能	低・中・高程度の確実さを表す副詞語と共起可能。 確実さを表す副詞語と共起することによって、命題内容に対する確実さの程度が調整可能。

証拠性	假定	「反事实的仮想」の用法を持つ. 論拠や知識に根拠を置いた判断(「概念的推量」)を表す. 直説法詠嘆形及び目撃法の終止形語尾と結合不可能.
頻度性	恒常 頻繁 稀	低・中・高程度の頻度性を表す副詞語と共起可能. 頻度を表す副詞語と共起することによって, 命題内容が事実と見なされる頻度が調整可能.

4.3. {I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다

既に안주호(2007)において明らかにされているように, 分析的な形の‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は, 「比喩」と「推量」を表す機能を有する. なお, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が表す「比喩」は, 「直喩(simile) ²¹⁾」に該当するものである. ここでは, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が「推量」の用法として用いられる場合に限定して, 考察を進めることにする ²²⁾.

(27) ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’と終止形語尾との共起関係

類型	直説法	推量法	目撃法	意志法	命令法	勧誘法
共起の可否	○	×	○	×	×	×

【根拠となる例文】

- a-1. 의사는 지금의 형편으로 보아 더 이상 집안에서의 보호 치료는 어려워진 시점이라고 판단하는 것 같다.

<21 세기 세종계획/4BE92001.txt>

医者は今の場合を見て, これ以上, 家の中での保護治療は, 難しくなった時点である(意識: 限界に達した)と判断しているようだ.

- a-2. 합작투자는 자동차나 알루미늄 분야가 전망이 밝은 것 같다.

<21 세기 세종계획/BA90A107.txt>

合作投資は, 自動車やアルミニウムの分野が展望が明るいようだ.

- a-3. 이에 대하여도 따로 발표할 기회가 있을 것 같다.

<21 세기 세종계획/BIXX0001.txt>

これについても別途発表する機会があるようだ.

- b. 정부는 새로운 정책을 국민들에게 발표{*하느/*한/*할} 것 같을까?

<作例, 非文>

- c-1. 김 대통령이 위기의식을 갖고 있는 것 같더라.

<21 세기 세종계획/4BA99E03.txt>

金大統領が危機意識を持っていたようだ.

- c-2. 애틀랜타에서 이리로 이사온 사람들이 굉장히 많은 것 같더라.
 <21 세기 세종계획/7BB03B27.txt>
 アトランタからこっちに引っ越して来た人たちがかなり多い
ようだった.
- c-3. 내가 안 하면 아무도 할 사람이 없을 것 같더라고.
 <21 세기 세종계획/6BA02E13.txt>
 私がしなければ誰もする人がいないような気がしたよ.
- d. 정부는 새로운 정책을 국민들에게 발표{*하는/*한/*할} 것
 같을게. <作例, 非文>
- e. 정부는 새로운 정책을 국민들에게 발표{*하는/*한/*할} 것
 같으십시오. <作例, 非文>
- f. 정부는 새로운 정책을 국민들에게 발표{*하는/*한/*할} 것
 같으십시오. <作例, 非文>

上の(27)が示すように, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は直説法及び目撃法の終止形語尾との共起が可能であるが, 推量法, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾との結合は不可能である.

まず, (27b)は極めて不自然な文である. ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は「推量」を表す機能を持つため, 「蓋然性判断を問う」機能を有する‘II-ㄷ까’との結合が成立しない.

次に, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾が‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’に結合出来ないのは, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’の構成要素である形容詞の‘같다(同じだ)’が持つ統辞的特徴に起因するものであると考えられる. 普通, 形容詞は意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾との結合が不可能である. ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’には, これの構成要素の 1 つである‘같다’の統辞的特徴が残っているものと推察される. また, 機能的な面から見ても, 「推量」を表す文法形式の後ろに, 出来事の実現または未実現を述べるために機能する参加者志向モダリティーを表す文法形式が後続するのは, 極めて不自然なことである. よって, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’に意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾が後続するという現象は成立しないのである.

注目すべきは(27c)が示すように, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が目撃法語尾との結合が可能な点である. 既に村田(1998: 29)が述べているように, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’を「現実に呈している様相を話し手なりに捉えて述べる」機能を持つ文法形式として見なすとすれば, 過去時における話し手の直接経験を基にした証拠の提示機能を持つ目撃法語尾との結合が成立するのは当然のことであろう.

しかしながら, 高地(2017: 44)による指摘があるように, ‘II-ㄷ 것 같다’が「反事実的仮想」を表す場合には, 目撃法語尾との結合が不可能である. 「反事実的仮想」は, 実際の状況とは異なる仮想的状況について述べるものであるため, 目撃法の機能との齟齬が生じてしまうからである.

- (28) a. 만약 내가 일제시대 때 태어났더라면 장담할 수는 없지만
 나는 충을 들고 싸울 수 있는 곳으로 갔을 것 같다.
 <21 세기 세종계획/BREO0095.txt>

もし私が日帝時代の時に生まれていたらとすれば、確信を持っては言えないが、私は銃を手にとって戦える所に行っただろう。

- b. *만약 내가 일제시대 때 태어났더라면 장담할 수는 없지만 나는 총을 들고 싸울 수 있는 곳으로 갔을 것 같더라.

<作例, 非文>

なお、「反事実的仮想」の用法は、‘{I-는/II-ㄴ} 것 같다’には無い。これは、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’の構成要素のうち、連体形語尾の‘I-는’及び‘II-ㄴ’は「実現」の意味的特徴を持ち、一方、‘II-ㄷ’は「未実現」の意味的特徴を有することに起因する現象であると考えられる²³⁾。

証拠性の観点から見た場合、「推量」を表す場合の‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は、「推論」と「仮定」の類型に跨って機能する文法形式であると言える。

まずは、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が「推論」の用法として用いられる例文を見てみよう。下記の例文(29a)において、下線部が示す話し手の判断が、話し手の聴覚を通じて得られた情報に根拠を置いたものであることは、明らかである。また例文(29b)では、話し手が視覚を通じて得た発話時の状況を証拠にして、「昨夜の天候」について判断を下している。さらに(29c)では、話し手の直感に根拠を置いた判断を表している。このように、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は、話し手の感覚や心理的な直感等を通じて得た直接観察が可能な状況に根拠を置いた「知覚的推量」、すなわち「推論」を表す場合によく用いられる。

- (29) a. 누군가 나에게 말을 거는 것 같다. 시선을 일른 소리나는 쪽에 갔다 덴다. <21 세기 세종계획/4BE86002.txt>
誰かが私に話しかけているようだ。視線を素早く声のするほうへ向ける。
- b. 유리창은 빗줄기들로 말갱게 씻겨 있고, 후박나무 잎새들 사이로 가벼운 물안개가 서려 있다. 간밤에 비가 내린 것 같다. <21 세기 세종계획/4BE92001.txt>
ガラス窓は雨粒ですっきりと洗われていて、ホオの木の葉の間に軽い水煙が立ちこめている。昨夜雨が降ったようだ。
- c. 그는 인간과 인간이 가장 인간다운 이유인 욕망 그리고 그것의 분출로 일어나는 일탈에 초점을 맞추고 있다. 그의 글은 충분히 공격적이고 반항적이다. 그를 만나는 일은 웬지 유쾌할 것 같다. <21 세기 세종계획/BRH00384.txt>
彼は人間と人間が最も人間らしい理由である欲望、そしてその噴出として起こる逸脱に焦点を当てている。彼の文章は十分に攻撃的であり、反抗的である。彼に会うことは何となく愉快だろうと思う。

次に、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が、「仮定」（「概念的推量」）の用法として用いられる例文を見てみよう。以下の例文(30a~c)が示すように、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は、‘I-다면’によって表される条件節との共起が可能である。つまり、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は、ある条件下で、特定の知識や論拠に

基づいて考えた場合に、導き出すことが出来る話し手の主観的判断を表す時にも、用いられるということである。このような‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’の用法は、「仮定」（「概念的推量」）の類型に該当するものであると言える²⁴⁾。

- (30) a. 오늘 보수층과 악수했다면 내일엔 반드시 진보층으로 달려가 그들을 얼싸안는 전술을 이용하는 것 같다.
 <21 세기 세종계획/7BB03B16.txt>
 今日保守層と握手したならば、明日には必ず進歩層のほうへ走って行って彼らを抱き込む戦術を利用するだろう。
- b. 어쨌든 아픔을 경험함으로써 출생의 기쁨을 부여받는다고 가정한다면 세상에 태어나는 것이 마냥 즐거운 것만은 아닌 것 같다.
 <21 세기 세종계획/BRH00105.txt>
 いずれにせよ痛みを経験することで出生の喜びを与えられると仮定するとすれば、世に生まれるのは、ただ楽しいことだけではないようだ。
- c. 정말 친구가 소중하다고 생각한다면 소홀히 하거나 무관심하지는 않을 것 같아요. <21 세기 세종계획/BRBD0236.txt>
 本当に友人が大切だと考えるのならば、いいかげんにしたり無関心ではないでしょう。

次に、確かさの程度を表す副詞語との共起関係について、考察してみよう。以下の例文(31)が示すように、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は、確かさが低・中・高程度の副詞語との共起が可能である。‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’自体には、命題内容の確かさを決定する機能があるわけではなく、共起する副詞語によって、命題内容に対する確信の度合いが調節されると考えられる。

- (31) a-1. 생각해 보니까... 그때... 어쩌면 지금두 이혼할 자신이 없는 것 같아요. <21 세기 세종계획/CJ000249.txt>
 考えてみると...あの時は...ひょっとしたら今も離婚する自信が無いように思います。
- a-2. 어쩌면 자기보다 그녀가 더 아이를 위해 중요한 존재인 것 같았다. <21 세기 세종계획/CE000024.txt>
ひょっとしたら自分より彼女のほうが子供のために重要な存在なのかもしれない。
- a-3. 어쩌면 이 생각은 이 아이뿐 아니고 그 자리에 있었던 모든 아이들이 다 같이 가지고 있었을 것 같다.
 <21 세기 세종계획/2BH9301.txt>
ひょっとしたらこの考えはこの子だけではなく、あの場にいた全ての子供たちが同じように持っていたように思う。
- b-1. 신문사 문화부장직에 있으면서 연재 소설을 부탁하기 위해 만난 이래 이러구러 몇 년인가. 아마 30 년 안팎쯤 되는 것 같다. <21 세기 세종계획/2BH9449.txt>
 新聞社の文化部長職にありながら連載小説をお願いするために会って以来かれこれ何年かな。 おそらく 30 年ほどにな

るだろう.

- b-2. 대표단을 철수시키지 않고 있다. 아마 내부적으로 정리하는 기간이 필요한 것 같다.

<21 세기 세종계획/4BA99E07.txt>

代表団を撤収させないでいる. おそらく内部的に整理する期間が必要なようだ.

- b-3. 아마 맨 처음에는 신이 아니라 영웅을 만들었을 것 같아요. 자신들보다 조금 더 나은 인간, 그보다 조금 더 나은 인간, 이러다가 신이 되고 나중에는 영웅과 구별이 되는 거죠.

<21 세기 세종계획/BRHO0384.txt>

おそらく一番最初は神ではなく英雄を作ったのでしょう. 自分たちよりもう少しだけ優れた人間, それよりもさらに少し優れた人間, このようにして神になり, 後に英雄と区別されるのですよ.

- c-1. 젊은 사무부장은 오늘도 활짝 신문을 펼쳐 들고 있었는데 그는 틀림없이 펼쳐 든 신문 뒤에서 낮잠을 자고 있는 것 같았다.

<21 세기 세종계획/2BEXXX19.txt>

若い事務部長は今日もぱっと新聞を広げて持っていたのだが, 彼は間違いなく広げて持った新聞の後ろで昼寝をしているようだった.

- c-2. 손님이 아까 하신 말씀을 종합해 보면 손님은 틀림없이 여기 지내시면서 무슨 불편한 점이 있으신 것 같군요.

<21 세기 세종계획/2BEXXX19.txt>

お客様が, 先ほどおっしゃったお話をまとめてみますと, お客様は間違いなくここでお過ごしになりながら何か不便な点があったのでしょうね.

- c-3. 과장께서 어떻게 추천하는 것을 보니 그 영업사원도 틀림없이 훌륭한 사람일 것 같습니다.

<21 세기 세종계획/BRHO0390.txt>

課長があんなに推薦するのを見ると, その営業社員も間違いなく立派な人なのではしょう.

続いて, 下記の例文(32a~32c)が示すように, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は, 普遍性を表す副詞語の‘일반적으로(一般的に)’と共起が可能である. この場合, 個別的で具体的な人物や事物にではなく, 総称的な存在を対象にした「概念的推量」が表される.

- (32) a. 일반적으로 생필품에서는 이성적 차원의 가치가 중요하고, 사치성 제품으로 갈수록 감성적 차원의 가치가 비중을 더해 가는 것 같다.

<21 세기 세종계획/7BA03B03.txt>

一般的に, 生活必需品では, 理性的な次元の価値が重要であり, 贅沢性の製品へと行けば行くほど, 感性的な次元の価値が比重を増して行くようだ.

- b. 우리 나라 사람은 일반적으로 책에 관심이 적은 것 같다.

我が国の人は、一般的に本に関心が少ないようだ.

- c. 일반적으로 말씨가 곱고 예쁘려면 먼저 문법에 맞아야 될 것 같다. <21 세기 세종계획/2CC00102.txt>

一般的に, 言葉遣いがきれいで美しくあろうとすれば, まず 文法に合わなければならないだろう.

また一方では, ‘때로는(時には)’, ‘자주(しょっちゅう)’, ‘항상(常に)’と
いった副詞語と共起することで, 命題内容を事実として捉える頻度を調整する
ことが可能である. 低・中程度の頻度を表す副詞語と共起する場合, 具体的且
つ個別的な人物や事物を対象にした「推量」を表すのに対し, 高程度の頻度を
表す副詞語と共起する場合は, 総称性を帯びた存在を対象に機能する.

- (33) a-1. 때로는 소비 지향의 이 시대 자체가 창조의 혼을
고갈시키고 있는 것 같다. <21 세기 세종계획/6BG0000.txt>
時には, 消費志向のこの時代自体が, 創造の魂を枯渇させ
ているようだ.

- a-2. 겉으로 보기에 그들은 나약하고 때로는 무기력한 것
같기도 하다. <21 세기 세종계획/CH000054.txt>
一見彼らは懦弱で, 時には無気力なようでもある.

- a-3. 수희 씨의 마음은 때로는 다 알 것 같으면서도 때로는
전혀 모르겠어요. <21 세기 세종계획/2CE00003.txt>
スヒさんの心は時には全部分かるようでありながらも, 時
には全然分かりません.

- b-1. 얼론에서도 이런 주장을 자주 다루고 있는 것 같다.
<21 세기 세종계획/6BA02D05.txt>
マスコミでもこのような主張をしょっちゅう扱っている
ようだ.

- b-2. 그 말을 듣고 보니 아파트 주변 공터에 공사장이 많이 들
어서면서부터 타이어 펑크가 났다는 말을 자주 들은 것
같기도 했다. <21 세기 세종계획/7BA03A12.txt>
その話を言われてみれば, アパートの周辺の空き地に工事
場が沢山入ってからタイヤがパンクしたという話をしょっ
ちゅう聞いたような氣もした.

- b-3. 앞으로 전현직 대통령인 부시 부자가 백악관에 사이좋게
앉아 있는 모습을 자주 볼 수 있을 것 같다.
<21 세기 세종계획/5BA01B02.txt>
これから前職及び現職の大統領であるブッシュ親子が, ホ
ワイトハウスに仲良く座っている姿をしょっちゅう見るこ
とができるだろう.

- c-1. 항상 집 지을 능력이 없는 어려운 분들에게만 시련이 닥
치는 것 같네요. <21 세기 세종계획/BRBD0236.txt>
常に家を建てる能力が無い困難な方たちにだけ, 試練が降
りかかるようですね.

- c-2. 서양인이 동양인을 보는 눈은 항상 짓궂은 것 같다.

<21 세기 세종계획/BRHO0126.txt>

西洋人が東洋人を見る目は, 常に意地悪なようだ.

- c-3. 우리가 그런 속에서 살고 있는 한 그런 죽음의 문제에 대해 항상 함께 생각해야 할 것 같습니다.

<21 세기 세종계획/BRHO0434.txt>

我々が, そのような中で生きている限り, そのような死の問題について, 常に共に考えなければならないでしょう.

上で考察した内容を基に, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’의 特徴について整理すると, 以下の(34)のとおりである. ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’は, 認識的モダリティー, 証拠性, 頻度性に跨って機能する分析的な形であると言える. 「推量」の機能を持つ‘II-ㄷ 것이다’との大きな違いは, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が「概念的推量」(「仮定」)のみならず, 話し手の感覚や心理的直感に判断の根拠を置いた「知覚的推量」(「推論」)の用法としても用いられるという点にある. これは, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’の構成要素の 1 つである形容詞の‘같다’の機能的特徴と関係するものと思われるが, この点についての解明は, 今後の課題として残すことにする.

(34) ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’의 機能的特徴

観点	機能的特徴	根拠
認識的 모다리티어	蓋然 可能	低・中・高程度の確実さを表す副詞語と共起可能. 確実さを表す副詞語と共起することによって, 命題内容に対する確実さの程度が調整可能.
証拠性	推論	感覚や心理的直感に基づいた判断(「知覚的推量」)を表す.
	仮定	「反事实的仮想」の用法を持つ. 論拠や知識に根拠を置いた判断(「概念的推量」)を表す. 目撃法の終止形語尾と結合不可能.
頻度性	恒常 頻繁 稀	低・中・高程度の頻度性を表す副詞語と共起可能. 頻度を表す副詞語と共起することによって, 命題内容が事実と見なされる頻度の調整が可能.

4.4. {I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다

以下の(35)が示すとおり, 分析的な形の‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’は, 直説法及び目撃法の終止形語尾との結合が可能であるが, 推量法, 意志法, 命令法, 勧誘法の終止形語尾との結合は不可能である.

(35) ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’と終止形語尾との共起関係

類型	直說法	推量法	目撃法	意志法	命令法	勧誘法
共起の可否	○	×	○	×	×	×

【根拠となる例文】

- a-1. 아직도 내 안 어디엔가 동심이 숨어 있는 모양이다.
 <21 세기 세종계획/BRBF0265.txt>
 未だに自分の中のどこかに童心が潜んでいるようだ.
- a-2. 헌병하사는 드디어 결단을 내린 모양이다.
 <21 세기 세종계획/2CE00015.txt>
 憲兵下士はついに決断を下したようだ.
- a-3. 수영 강사는 은혜에게 양식 요리를 사 줄 모양이다.
 <21 세기 세종계획/4BE99008.txt>
 水泳の講師はウンへに洋食の料理をごちそうしてあげるようだ.
- b. 비가 {*오는/*온/*을} 모양일까? <作例, 非文>
- c-1. 자기 차례가 되니까 회의 흐름을 짚어가면서 얘기하는 걸 보면 졸면서도 정말 듣기는 듣는 모양이더라.
 <21 세기 세종계획/7BA03A11.txt>
 自分の順番になると会議の流れを辿っていきながら話すのを見れば, うとうとしながらも本当に聞くには聞いているようだったよ.
- c-2. 나중에 들린 소문에 의하면 아버지는 인천에 있는 숙부 되는 이의 공장에서 지낸 모양이더라.
 <21 세기 세종계획/7BE03005.txt>
 後で聞こえた噂によれば, 父は仁川にいる叔父に当たる人の工場で過ごしたようだったよ.
- c-3. 도적들이 저희끼리 의논하는 소리를 내가 들으니, 웅포에서 배를 타고 남양으로 향할 모양이더라.
 <21 세기 세종계획/2BEXXX04.txt>
 盜賊たちが自分たちだけで議論している話を私が聞いたところ, 熊浦から船に乗って南陽へ向かうようだったよ.
- d. 비가 {*오는/*온/*을} 모양일게. <作例, 非文>
- e. 비가 {*오는/*온/*을} 모양이십소오. <作例, 非文>
- f. 비가 {*오는/*온/*을} 모양입시다. <作例, 非文>

既に, 안주호(2004: 174-176)や정유남(2006: 59-60)等で明らかにされているように, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’は, 事実に基づいた「推量」を表す分析的な形である. よって, 「蓋然性判断を問う」機能を持つ推量法の終止形語尾である‘II-ㄷ까’との結合は, 機能的な面での齟齬が生じてしまうため, 成り立たないと考えられる.

また、意志法、命令法、勧誘法の終止形語尾が共起しないのは、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’の構成要素の 1 つである指定詞‘이다’の本来の統辞的特徴に起因するものである。指定詞‘이다’は、意志法、命令法、勧誘法の終止形語尾と結合しないためである。また、機能的な面からの説明としては、(「推量」を表す、上述の、他の分析的な形に関する説明と重複するが)、認識的モダリティーの機能を有する文法形式の後ろに、参加者志向モダリティーを表す機能を持った文法形式が続くことは、基本的にあり得ない現象である。よって、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’に意志法、命令法、勧誘法の終止形語尾は後続し得ないのである。

高地 (2017: 44-45) において述べられているように、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’は、話し手の五感を通じて得た何かしらの情報に判断の根拠を置く「推量」を表すのが特徴である。よって、話し手の直接経験に根拠を置きながら、命題内容の事実性の裏付けを行う機能を持つ目撃法の終止形語尾との結合が可能なもの納得が行く。

‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’が話し手の知覚に情報の根拠を置いた「推量」を表すことは、他の現象を通じても証明が可能である。まず、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’が直説法詠嘆形の終止形語尾の‘I-구나’と結合し得ることに注目したい。박재연(2006: 229)によれば、‘I-구나’は「直接的な感覚行為を通じて新たに知った事態」について述べる際に用いられると言う。つまり、‘I-구나’にも直接経験に根拠を置くという特徴が備わっているものであり、この特徴ゆえに‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’との結合が成り立つのである²⁵⁾。

- (36) a. (길가에 소형 삼륜(三輪) 트럭이 한 대 서 있었다.)
누가 이사하는 모양이구나. <21 세기 세종계획/BRE00076.txt>
(道端に小型の三輪トラックが 1 台止まっていた.)
誰か引っ越しするようだね.
- b. 이렇게 늦은 것을 보니 얘기를 많이 나눈 모양이구나.
<21 세기 세종계획/BRE00081.txt>
こんなに遅れたのを見るに、話を沢山交わしたようだね.
- c. (외출복을 갈아입는 걸 보고)
너 외출할 모양이구나. <21 세기 세종계획/BRH00399.txt>
(外出着に着替えるのを見て)
お前、外出するようだね.

さらに、仮定条件に根拠を置いた「推量」を表す場合には‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’が用いられないということも、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’が話し手の知覚に情報の根拠を置いた「推量」を表すことを証明している。高地 (2017: 45) において指摘があるように、仮定条件とはそもそも話し手の認識においては事実とは異なる事柄になるので、推量判断の根拠となる何かしらの事実を前提として要求する‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’の性格と調和しない。よって、以下の例文(37)²⁶⁾は不自然な文として見なされるのである。

- (37) a. *만약에 물방울이 지붕을 치는 소리가 들린다면 비가 오는 모양이다. <作例, 非文>

その女性は、綺麗な草花や木の枝を折っていました。おそらく家に持って行って、花瓶にでも生けておくのだでしょう。

- c-1. 이 여자는 틀림없이 나의 병세를 알고 있는 모양이다.

<21 세기 세종계획/CE000028.txt>

この女は間違いなく私の病状を知っているようだ。

- c-2. 잡혔다면 떠들썩할 터인데 이렇듯이 귀족은 듯하니 분명히 실패하여 달아난 모양이다.

<21 세기 세종계획/2BEXXX04.txt>

捕まったとすれば騒々しいはずなのに、こんなふうひっそりとした様子であることから、明らかに失敗して逃げたようだ。

- c-3. 짐을 정리하는 것을 보니 {분명히/틀림없이} 그 남자는 본사로 돌아갈 모양이다. <作例, 非文>

- c-4. 짐을 정리하는 것을 보니 {분명히/틀림없이} 그 남자는 본사로 돌아가는 모양이다. <作例>

荷物を整理しているのを見るに、{明らかに/間違い無く}その男は本社に戻るようだ。

‘II-ㄷ 것이다’は、論拠や知識に根拠を置いた「概念的推量」を表し、‘II-ㄷ 모양이다’とは全く異なる性格を有する。話し手の直接経験を必須の前提として要求しない‘II-ㄷ 것이다’は、甚だしくは想像の中でだけ論理的な矛盾さえなければ、命題内容に対する高い確信を表すことが可能なのである。よって、先に提示した例文(24c)のように‘틀림없이(間違いなく)’との共起が可能なのである。

また、‘II-ㄷ 것 같다’は、‘II-ㄷ 모양이다’と同様に、話し手の直接経験に根拠を置いた「知覚的推量」を表しはするが、‘II-ㄷ 모양이다’に比べ、その根拠に客観性が欠けているように思われる。例えば、以下の例文(39a)が示すように、‘II-ㄷ 모양이다’が副詞語の‘왈지(何となく)’との共起が不自然であるのに対し、(39b)で‘II-ㄷ 것 같다’は‘왈지(何となく)’と共起が可能である。(39b)では特別な根拠無く話し手の直感にのみ依拠した「推量」を表している。すなわち、‘II-ㄷ 것 같다’は、‘II-ㄷ 모양이다’とは異なり、客観性が欠落した場合であっても話し手自身が思い込んでいれば、いくらかでも命題内容の事実性に対する自身の判断を示すことが出来るのである。したがって、あらゆる確かさの程度を表す副詞語と制約無く共起することが可能であり、(31c-3)のように‘틀림없이(間違いなく)’との共起が可能なのである。

- (39) a. *왈지 비가 올 모양이다.

<作例, 非文>

- b. 왈지 비가 올 것 같다.

<作例>

何となく雨が降りそうな気がする。

次に、‘{I-ㄴ/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’と頻度性の副詞語との共起関係について見てみよう。まず、以下の例文(40a~40c)が示すように²⁸⁾、‘{I-ㄴ/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’は普遍性を表す副詞語の‘일반적으로(一般的に)’と全く共起することが出来ない。これは話し手の直接経験を通じて得た情報に基づいた「知覚的推

量」のみを表す「{I-ㄴ/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다」の特性と深く関係のある現象である。言い換えれば、「{I-ㄴ/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다」は時間的局所限定性を持っているため、「일반적으로(一般的に)」といった副詞語との共起が不可能なのである。

- (40) a. *일반적으로 인간은 개인주의를 좋아하는 모양이다.
 <作例, 非文>
 b. *일반적으로 인간은 개인주의적 동물인 모양이다.
 <作例, 非文>
 c. *일반적으로 중앙집권화된 국가는 살아남을 수 없을 모양이
 다.
 <作例, 非文>

なお、以下の例文(41a, 41b)が示すように、‘{I-는/II-ㄴ} 모양이다’が‘언제나(いつでも)’や‘항상(常に)’といった高い頻度性を表す副詞語と共に起する場合がある。しかしながら、このような場合でも、話し手は具体的に特定された人物や事柄を対象に、これまで直接経験したことを根拠に自身の判断を述べているのに過ぎない。よって(41a, 41b)における「いつでも」と「常に」は、話し手の知り得る範囲に限定された時間的及び空間的な全領域を意味するのであって、制限の無い全時間的・空間的な領域を意味するわけではない。このような特性は、先に見た‘I-는 법이다’の特性と正反対のものであると言える。したがって、総称的な存在や事柄を対象に語る際は、‘{I-는/II-ㄴ} 모양이다’は用いられない。

- (42) a. 그는 언제나 방에서만 틀어박혀 지내는 모양이었다. <21세기 세종계획/BRG00362.txt>
 彼は、いつでも部屋にのみ閉じこもって過ごしているようだった.
 b. 삶을 즐기는 자유주의자들의 나라 프랑스에선 결혼이 항상
말썽인 모양이다. <21세기 세종계획/BRG00345.txt>
 生を楽しむ自由主義者達の国、フランスでは結婚が常に揉め
事のようだ.
 c. *인류는 언제나 이기적으로 사는 모양이다. <作例, 非文>
 d. *인류는 언제나 이기적인 존재인 모양이다. <作例, 非文>

以下の例文(43)が示すように, ‘{I-는/II-ㄴ} 모양이다’は低・中程度の頻度を表す副詞語の‘가끔(時々)’や‘자주(しょっちゅう)’と共に, 命題内容を事実と見なす頻度のある程度調整することが可能である.

- (43) a. 처음 제가 여기 왔을 적에는 그렇지 않더니 요새에는 가끔 혼수 상태에 빠지시는 모양이에요.
 <21 세기 세종계획/BEXX0028.txt>
 初めて、私がここに来た時には、そうではなかったのに、最近では、時々昏睡状態に陥るようです.
 b. 어머니는 동생을 위해 가끔 이것저것 도와준 모양이다.

<作例>

母は、弟のために、時々あれやこれやと、助けてくれたよう
だ.

- c. 비스바바라티대학은 타고르가 꿈꾸던 이상향답게 문화 행사가 자주 열리는 모양이었다.

<21 세기 세종계획/BRBD0065.txt>

Visva-Bharati 大学は、タゴールが夢見た理想郷らしく、文化の行事がしょっちゅう開かれるようだった。

- d. 어머니가 그렇게 친절로 돌아와 버려도 누님의 아버지는 인연을 끊지 않고 자주 처가를 왕래한 모양이었다.

<21 세기 세종계획/7BE03005.txt>

母が、そのように実家に戻って来てしまっても、お姉さまの父は縁を切らず、しょっちゅう母の実家を往来したようだった。

なお、‘II-ㄷ 모양이다’が低・中程度の頻度を表す副詞語と共起した例文を探すことが出来なかったことを述べておく。過去時から発話時における間の観察を通じて未来時における事柄についての「知覚的推量」を表す‘II-ㄷ 모양이다’の機能的性質上、頻度を表す副詞語との共起が難しいと考えられる。未来時において一定の頻度で複数回に渡って起こり得る事柄について‘II-ㄷ 모양이다’を用いるためには、観察に基づいた確固たる証拠が前提として要求される。しかしながら、未来時に起きる出来事について過去時から発話時において観察することは簡単ではない。よって、頻度を表す副詞語と‘II-ㄷ 모양이다’の共起は成立し難いのである。一方、‘II-ㄷ 것 같다’は確固たる証拠が無くとも、直感による「推量」を表すことが可能であるため、以下の例文(44b)は自然な文として成り立つ。

- (44) a. *지금 상황으로 미루어 보아 앞으로도 비슷한 일이 {가끔/자주}²⁹⁾ 일어날 모양이다. <作例, 非文>

- b. 웬지 앞으로도 비슷한 일이 {가끔/자주} 일어날 것 같다. <作例>

何となくこれから同じようなことが{時々/しょっちゅう}起きるような気がする。

上で考察した内容を基に、‘{I-ㄴ/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’の特徴について整理すると、以下の(45)のとおりである。

(45) ‘{I-ㄴ/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’の機能的特徴

観点	機能的特徴	根拠
認知的 モダリティ	蓋然	(共通特徴) 低程度の確かさを表す副詞語と共起不可能だが、中程度の確かさを表す副詞語とは共起可能。
		(‘{I-ㄴ/II-ㄴ} 모양이다’のみ)

		高程度の確かさを表す副詞語と共起可能.
証拠性	推論	五感を通じて得た情報に根拠を置いた判断(「知覚的推量」)を表す. 確固たる根拠がある場合にのみ使用可能. 副詞語の‘웬지(何となく)’と共起不可能.
頻度性	該当無し	(共通特徴) 普遍性を表す副詞語の‘일반적으로(一般的に)’と共起不可能.
	恒常 頻繁 稀	(‘{I-는/II-ㄴ} 모양이다’のみ) 高程度の頻度を表す副詞語と共起可能(但し, 具体的に特定された人物や事柄を対象に話し手の知り得る範囲に限定された時間的空間的な全領域を意味する.) 低・中程度の頻度性を表す副詞語と共起可能. 頻度を表す副詞語と共起することによって, 命題内容が事実と見なされる頻度が調整可能.
	該当無し	(‘II-ㄴ 모양이다’のみ) 頻度を表す副詞語と共起不可能.

‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 모양이다’は, 構成要素の一部である連体形語尾の種類によって, 機能する領域が異なるのが特徴的である. ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 모양이다’に共通して言えるのは, 認識的モダリティと証拠性に跨って機能するという点である. 話し手が五感を通じて得た情報を根拠に「知覚的推量」のみを表し, 「蓋然」以上の確かさを示す「推量」を表すという点で, 先に見た‘II-ㄴ 것이다’及び‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 것 같다’とは大きく異なる.

‘{I-는/II-ㄴ} 모양이다’は, 頻度性の機能をも持つ形式であり, 低・中・高程度の頻度を表す副詞語との共起が可能である. 一方, ‘II-ㄴ 모양이다’は, 頻度を表す副詞語との共起が不可能であり, 頻度性の機能を持ち合わせていないということが明らかになった.

5. おわりに

本稿では, 所謂「対命題機能」を持つ幾つかの分析的な形について, 認識性(認識的モダリティ及び証拠性)と頻度性の観点から考察を試みた. 考察結果を簡潔に整理すれば, 以下の(46)のとおりである.

今回の考察を通じて, 「対命題機能」を有する分析的な形が, どういった意味機能領域に関与し, どのように互いに弁別的に機能しているのかが, ある程度明らかになったと思われる.

今後は朝鮮語に数多く存在する「対命題機能」を持つ分析的な形について同様の観点からの考察を行い, 意味機能的特徴に従った分類を試みるのが課題と

なりそうである。

また、このような考察を土台として、朝鮮語における認識的モダリティーと証拠性の関係が、類型論研究者が主張するものとどの程度合致するかについて検討することもあると思われる。

(46) 考察結果

形式	I-는 법이다	II-ㄴ 것이다	{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ 것 같다	{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ 모양이다
認識的 モダリティー	確実	蓋然 可能	蓋然 可能	蓋然
証拠性	該当 無し	仮定	推論/仮定	推論
頻度性	恒常	恒常 頻繁 稀	恒常 頻繁 稀	恒常 頻繁 稀 (II-ㄴ 모양이다は 該当しない)

《註》

- 菅野(2006: 172-174)による説明に従えば、分析的な形(analytic forms)とは、総合的な形(synthetic forms)と概念的対立を成す形態論的な単位であり、総合的な形が1つの単語内部の語形変化による文法的機能を持つのにに対し、分析的な形は2つ以上の単語にまたがって一定の文法的機能を表す形式のことを言う。
- Palmer(2001: 8-9)では、英語の助動詞'must'が、"Kate must be at home."「ケイトは家にいるに違いない。」という文において観察を通じて得た命題内容に関する証拠に基づく判断、すなわち演繹(deductive)を表すことから、認識的モダリティーと証拠性の境界の曖昧さを指摘している。
- Boye(2010)の言う「認識的な表現(epistemic expressions)」とは認識性を表す(すなわち、認識的モダリティーまたは証拠性、もしくはそれら両方を表す)語彙や文法形式のことを意味する。
- Hallyday and Matthiessen(2004)では、情報の交換を目的としたモダリティーの下位カテゴリーのことをモダライゼーション(modalization)と呼び、モダライゼーションのうち交換すべき情報の事実性について論じるものを「蓋然性(probability)」と呼んでいる。Hallyday and Matthiessen(2004: 618)で説明されているように、彼らの言う「蓋然性」とは認識的モダリティーのことを意味する。
- 朝鮮語における証拠性の機能を持つ文法形式の全体像はまだ明らかにされてはいないが、証拠性に関わる幾つかの文法形式については、박재연(2006), Lee(2011), 김진웅(2012), 진관초(2015)等で考察がなされている。
- 結論を下すには綿密な考察が必要ではあるが概観するに、朝鮮語の場合、終止形語尾のうち、例えば、'I-네'や'I-더라'等は直接経験に基づく事実認識を表すため(9a)及び(9b)に跨って機能すると考えられる。また、'{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 모양이다'は「知覚的推量」を表すため(9c)に、'II-ㄴ 것이다'は「概念的推量」を表すため(9d)に、'{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 것 같다'は「知覚的推量」と「概念的推量」を表すため(9c)と(9d)に、そして、伝聞機能を有する'I-다고 말하다'や'名詞-(이)라고 하다'等は(9e)及び(9f)に跨って機能すると思われる。このように朝鮮語においては、証拠性の機能を有

する文法形式が多様なレベルで散在しており、整然とした体系として成立しているとは見なし難い。

- 7) Thompson(1996)の言う「蓋然性」とは「認識的モダリティ」のことである。
- 8) ‘I-는 법이다’の機能的特徴については, 이양희(2005), 이금희(2012), 다카치(2018)等において詳細に記述されている。
- 9) 김일환・박종원(2003: 157-161)によれば, ‘I-기 십상이다’は高い蓋然性を表すために用いられると言う。
- 10) ‘II-ㄴ 것이다’が統辞的条件や文脈によって「意志」または「推量」を表す機能を持つことは周知の如きである。目的上, 本稿では‘II-ㄴ 것이다’が「推量」を表す場合にのみ焦点を当てることにする。野間(1990: 55)によれば, ‘II-ㄴ 것이다’の「推量」の意味とは, 「発話の現場にいない主体の姿を対象化し, 想像を発展させながら推し量って述べる」ものであると言う。
- 11) 但し, 直説法のうち詠嘆形の終止形語尾(‘I-군(요)’, ‘I-구만’等)が‘I-는 법이다’に後続することは不可能である。これは「普遍の真理」や「一般的事実」を表す‘I-는 법이다’と発話の現場における「新たな事実の発見(새로 알)」を表す詠嘆形の終止形語尾の機能が調和しないためであると考えられる。なお, ‘I-군(요)’, ‘I-구만’等の機能については, 박재연(2006: 229-231)に詳しく記述されている。
- 12) 終止形語尾の類型については菅野他(1991: 1023-1025)による分類に従う。
- 13) 例文(13b)は言語コーパス『21世紀世宗計画』から収集したものであるが, 極めて不自然であるとの指摘を複数の朝鮮語インフォーマントから受けた。なお, 査読者から, 格言を命題としないもの, すなわち「一般的な事実」を命題にした場合における‘I-는 법이다’と‘II-ㄴ까’の結合について, 検証の必要性を提示頂いた。インフォーマントによる検証の結果, 「一般的な事実」を命題とした場合でも, ‘I-는 법이다’と‘II-ㄴ까’の結合の結合は, 不自然なものとして見なされるという意見を得た。したがって, 例えば, ‘인간은 누구나 곁에 보이는 것, 들리는 것만으로 상대를 평가하는 법일까?’という文は, 不自然なものとして見なされるということである。また, ある韓国人インフォーマントの意見によれば, 命題について疑問を抱き, 自問するような場面では, ‘인간은 누구나 곁에 보이는 것, 들리는 것만으로 상대를 평가하는 것일까?(人間は誰でも表に見えるもの, 聞こえるものだけで相手を判断するのだろうか?)’と言ったほうがより自然であると言う。
- 14) 時間的局所限定性(temporal localization)とは, 浜之上(未公刊: 136)によれば, 「ある事象が時間の流れの中における相対的に短い期間に存在する“特定の顕在的な場”に存在しているかどうかということに関する時間的, 空間的な概念」のことである。
- 15) 話し手が過去に経験した「一般的事実」について語る場合, ‘I-는 법이다’と‘I-더-’の結合が可能なのか, という質問を査読者から頂いた。証拠性(evidentiality)の機能を持ち, 主に「回想」を表す場合に使用される‘I-더-’は, 命題の内容を話し手という個人が経験した「個別的な事柄」として捉える機能を持つ。‘I-더-’には時間的局所限定性が備わっているためである。よって, 例えば, ‘사람들은 결혼을 하면 주택을 구매하는 법이더라.’というような文は極めて不自然なものとして見なされる。朝鮮語の‘I-는 법이다’を日本語に翻訳すると「～するものだ」と表されはするが, 「～するものだ」の過去形である「～するものだった」と朝鮮語で言いたい場合は, 例えば ‘옛날에는 결혼을 하면 집을 구매하는 것이 보통이었다.(昔は結婚をすれば住宅を購入するのが普通だった(意識: 購入するものだった).)’のように言うべきであって, ここで‘I-는 법이다’をわざわざ用いることは無い。過去の経験から「多くの人々が結婚後に住宅を購入する」ということが「一般的事実」として, 話し手によって認識されている場合は, ‘사람들은 결혼을 하면 주택을 구매하는 법이다.(人々は結婚すれば住宅を購入するものだ.)’と述べれば良いのである。
- 16) 例えば, ‘부모(들)은 원래 자식을 사랑하는 법이다.(親(達)は, 元々は子供を愛するものだ.)’という文は成立するが, この場合の‘부모(親)’とは, 総称としての「親」という存在全般のことであり, 1つの個別的な家庭における「親」ではない。よって‘I-는 법이다’と‘II-시-’を結合させた‘부모(들)은 원래 자식을 사랑하시는 법이다.’や‘부모(들)은 원래 자식을 사랑하는 법이다.’といった文は極めて不自然である。

- 17) 本文の例文(16b)について、「副詞語の‘늘(いつも)’が、連体形の‘들어나는(現れる)’を修飾しているのではないか」との指摘を査読者から頂いた。その可能性はある。念のため述べておくと、「걸으로 드러나는 것은 늘 빙산의 일각에 지나지 않는 법이다.(表に現れるのは、いつも氷山の一角に過ぎないものである。)’とした場合、自然な文として成立し、‘I-는 법이다’が高い頻度性を表す副詞語との共起が可能であることを証明する例文として見なすことが出来る。
- 18) ‘II-ㄷ 것이다’は直説法詠嘆形の終止形語尾との結合が不可能である。これは、直説法詠嘆形の終止形語尾が発話の現場における「新たな事実の発見」を表すのに対し、‘II-ㄷ 것이다’は、必ずしも話し手の直接的な経験に基づく推量判断を表すわけではないため、機能上の齟齬が生じることに起因する現象であると考えられる。
- 19) 例文(21a, 21b)は、高地(2017: 40)から引用したものである。
- 20) 本文の例文(24a~24c)について、「副詞語が無くても文が成り立つならば、その文の確かさは副詞語によって決定されるものでもない」という指摘を査読者から頂いた。確かに、例文(24a~24c)において副詞語を除去したとしても、それぞれの文は成立する。筆者が述べたいのは、「副詞語によって確かさの程度の調整が可能である」ということであり、それ以上でもそれ以下でもない。決して「副詞語によって、確かさが決定される」と断言しているのではない。場合によっては、文脈によっても、確かさというものは左右されるであろう。ここで注目したいのは、他の「対命題機能」を有する分析的な形と比べて、‘II-ㄷ 것이다’が、頻度性の副詞語との共起という点で選択制限(selectional restrictions)が少ないということである。
- 21) 三木(2012: 46)の説明にあるとおり、「直喩」とは特定の言語形式を用いて「比喩」が明示的に表されるものを意味する。
- 22) ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’が「直喩」の用法として用いられる場合については、高地(2017: 41-43)の考察を参考すること。
- 23) 連体形語尾に関する詳しい考察は、다카치(2008)を参照すること。
- 24) 査読者は、「仮定」は‘I-다면’には認められるが、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’等には認めづらい」という意見を残してくれたが、この意見の真意について、筆者は解りかねない。ひょっとしたら、‘I-다면’のような条件節によって表される機能と‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’による「仮定」の機能を混同した可能性があるかも知れない。本稿では、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 것 같다’の記述において、「仮定」という用語を使用しているが、本文で既に述べているとおり、ここで言う「仮定」とは「推量」の種類の1つであり、ある前提知識が設定され、特定の結果が存在している状況において、判断を下すことが出来る「概念的推量」のことを意味するものである。
- 25) 「読む」、「思考する」、「思い出す」等の行為を通じて「知る」または「気付く」場合、‘I-구나’や‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’等の使用可否について、査読者から質問を頂いた。この質問については綿密な調査が必要であるが、私見では可能であると思われる。例えば、新聞やニュース等を通じて、「韓国のとある大企業が経営破綻した」という情報を話し手が得ている状況で、‘한국 경제가 많이 어려운 모양이구나.(韓国経済が随分大変なようだな。)’と述べる事が可能である。
- 26) 例文(37)は高地(2017: 45)から引用したものである。
- 27) 다카치(2008: 662)では、‘I-는’及び‘II-ㄴ’が言及内容に「現実(realis)」の特性を付加するのに対し、‘II-ㄷ’は「非現実(irrealis)」の特性を付加すると述べた。すなわち、‘I-는’及び‘II-ㄴ’は言及する事態を実現したものあるいは事実と見なす場合に用いられ、一方、‘II-ㄷ’は事態を未実現のものあるいは反事実と見なす場合に用いられるということである。
- 28) 作例で非文を示す論述方法について、査読者から批判的な意見を頂いた。筆者が調査した限りでは、副詞語の‘일반적으로(一般的に)’が分析的な形の‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’と共に例文を見つけることが出来なかった。このため、朝鮮語のインフォーマントに確認をしたところ、‘일반적으로’と‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’の共起は不自然であるとの返答を受けた。これは、重要な指摘である。というのも、‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄷ} 모양이다’が時間的局所限定性の特性を有するがために、総称性の特性を有する‘일반적으로’との機能的な面での齟齬を起こすことを端的に証明している

ためである。したがって、議論の展開上、言及すべき内容であったため、作例で非文を提示し、それに関する説明を述べることにしたのである。

- 29) 本文の例文(44a)において、副詞語の‘가끔(時々)’または‘자주(しょっちゅう)’を除去した場合の文の成立可否について査読者からの質問を頂いた。複数の韓国人インフォーマントから、(44a)において‘가끔’または‘자주’を除去した例文は、正文として受け入れられるとの返答を受けた。

《参考文献》

(日本語で書かれたもの)

- 菅野裕臣(2006),「朝鮮語の形態論的単位について」,『韓国語学年報』第2号,神田外語大学韓国語学会, pp. 159-177.
- 菅野裕臣他(1991),『コスモス朝和辞典(第2版)』,白水社.
- 高地朋成(2017),「証拠性とモダリティをめぐる諸問題:特に‘I-더-’を中心に」,『韓国語学年報』第13号,神田外語大学韓国語学会, pp. 27-65.
- 田中愼(2017),「証拠性表現としての推量の分類」,『Inference と Assumption の言語対照研究:証拠性の日英対照研究とその教育への応用』,千葉大学大学院人文社会科学研究科, pp. 1-12.
- 仁田義雄他(2000),『日本語の文法3 モダリティ』,岩波書店.
- 野間秀樹(1988),「〈하겠다〉の研究:現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって」,『朝鮮学報』第129輯,朝鮮学会, pp. 1-73.
- 野間秀樹(1990),「〈할 것이다〉の研究:再び現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって」,『朝鮮学報』第134輯,朝鮮学会, pp. 1-64.
- 三木那由他(2012),「直喩の形式意味論」,『Contemporary and Applied Philosophy』第3号, pp. 46-66.
- 村田寛(1998),「〈連体形 + 짓 같다〉をめぐって:現代朝鮮語のムード形式の研究」,『朝鮮学報』第168輯,朝鮮学会, pp. 1-37.
- 浜之上幸(未公刊),『現代朝鮮語のアスペクト論』.

(朝鮮語で書かれたもの)

- 김일환・박종원(2003),「국어 명사화 어미의 분포에 대한 계량적 연구」,『국어학』 제 42 호, 국어학회, pp. 141-177.
- 김진웅(2012),「한국어 증거성의 체계: 유형론을 중심으로」,『한국어 의미학』 제 39 호, 한국의미학회, pp. 101-124.
- 다카치 토모나리(2008),「현대 한국어 관형절 어미 기능에 대한 시론」,『언어』 제 33-4 호, 한국언어학회, pp. 629-664.
- 다카치 토모나리(2016),「‘-(으)ㄴ 것이다’와 ‘-(으)ㄴ 터이다’에 대한 일고찰」,『언어와 정보 사회』 제 27 호, 서강대학교 언어정보연구소, pp. 87-118.
- 다카치 토모나리(2018),「‘-는 법이다’와 ‘-기 마련이다’의 양태 정도성」,『어학연구』 제 54-1 호, 서울대학교 언어교육원, pp. 97-121.
- 박재연(2006),『한국어 양태 어미 연구』, 태학사.
- 안주호(2004),「명사 ‘모양(模樣)’과 ‘법(法)’의 공시성과 통시성」,『국어교육』 제 114 호, 한국국어교육학회, pp. 167-198.
- 안주호(2007),「용언 ‘갈-’ 구문의 공시성과 통시성」,『새국어교육』 제 77 호, 한국국어교육학회, pp. 441-465.
- 이정민他(2000),『언어학사전(제3판)』, 박영사.
- 진관초(2015),「한국어 증거성 표지의 담화화용적 기능: 혼잣말의 쓰임을 중심으로」,『한국어 의미학』 제 48 호, 한국의미학회, pp. 79-114.

- 이양희(2005), 「한국어 ‘범이다’ ‘마련이다’의 의미용법」, 『언어과학연구』 제 32 호, 언어과학회, pp. 269-284.
- 이금희(2012), 「의존명사의 문법화 정도와 양태적인 의미」, 『어문연구』 제 40-3 호, 한국어문교육연구회, pp. 57-89.

(英語で書かれたもの)

- Aikhenvald, A. Y. (2004), *Evidentiality*, Oxford University Press.
- Aikhenvald, A. Y. (2006), Evidentiality in grammar. In: Brown, Keith, (ed.) *Encyclopedia of Languages and Linguistics*. Elsevier, pp. 320-325.
- Aikhenvald, A. Y. (2007), Information source and evidentiality: what can we conclude?, *Italian Journal of Linguistics 19-1*, Pacini Editore, pp. 209-227.
- Boye, K. (2010), Semantic maps and the identification of cross-linguistic generic categories: Evidentiality and its relation to epistemic modality, *Linguistic Discovery 8-1*, Dartmouth College Library, pp. 4-22.
- Cornillie, B. (2009), Evidentiality and epistemic modality: On the close relationship between two different categories, *Functions of Language 16-1*, John Benjamins, pp. 44-62.
- de Haan, F. (2005), Encoding speaker perspective: Evidentials, *Linguistic diversity and language theories 72*, John Benjamins, pp. 379-417.
- Halliday, M.A.K. and Matthiessen, C. M.I.M.(2004), *An Introduction to Functional Grammar* (3rd ed.), Hodder Arnold.
- Kearns, K. (2000), *Semantics*, Palgrave Macmillan.
- Lee, J. (2011), The Korean evidential *-te*: A modal analysis, *Empirical Issues in Syntax and Semantics 8*, pp. 287-311.
- Nauze, F. D. (2008), *Modality in Typological Perspective*, Institute for Logic, Language and Computation, Universiteit van Amsterdam.
- Palmer, F. R. (2001), *Mood and Modality* (2nd ed.), Cambridge university Press.
- Thomson, G. (1996), *Introducing Functional Grammar*, Arnold.

《言語コーパス》

문화체육관광부/국립국어원 (2011), 『21세기 세종계획 최종 성과물 (2011년 12월 수정판)』.

【謝辞】本稿に関連する調査において、協力を惜しまず、例文の適正についてご助言を下された韓国人インフォーマントの諸氏、そして「第4回朝鮮語及び周辺諸言語研究会」において、本研究の内容について、有益なご意見をご提示下さった諸先生方に、心から感謝申し上げます。また、拙稿について、ご指摘及びご助言をご提示下さった『韓国語学年報』の査読者の先生方にも、お礼申し上げます。

명제 지향적 기능을 가진 현대 한국어의 분석적 형식에 대하여
-인식성과 빈도성의 관점에서-

다카치 토모나리
천리대학

이 연구는 현대 한국어의 명제 지향적 기능을 가진 분석적 형식들(analytic forms)을 대상으로 인식성(epistemicity)과 빈도성(usuality)의 관점에서 고찰한 것이다. 여기에서 말하는 ‘명제 지향적 기능을 가진 분석적 형식’이란 문자 그대로 ‘명제를 대상으로 기능하는 분석적 형식’을 의미한다. 명제를 대상으로 기능하는 분석적 형식들은 명제의 사실성(factual status)을 언급하거나 명제의 사실성을 뒷받침하는 증거(evidence)를 제시하는 특징을 지닌다.

현대 한국어에서 명제 지향적 기능을 가진 분석적 형식들의 대부분은 명제의 사실성에 대한 화자의 판단(speaker's judgement)을 표현하기 때문에 지금까지 주로 인식적 양태(epistemic modality)의 관점에서 논의되어 왔다. 그러나 명제 지향적 기능을 가진 분석적 형식들의 기능적 특징을 보다 자세히 파악하기 위해서는 다각적 접근이 필요하다. 따라서 본고에서는 인식적 양태, 증거성(evidentiality), 그리고 빈도성의 관점에서 해당 분석적 형식들에 대한 기술을 시도하였다.

고찰에 앞서 인식성을 구성하는 인식적 양태와 증거성의 공통점 및 차이점, 그리고 빈도성에 관한 정의를 내려 각 관점의 차이를 명확히 하였다. 구체적인 고찰에서는 ‘I-는 법이다’, ‘II-ㄴ 것이다’, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 것 같다’, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 모양이다’를 대상으로 종결형 어미(final endings) 및 부사어(adverbial phrases)와의 공기 관계 성립 여부, 가정 조건 표현과의 공기 여부, 총칭성(genericity)을 갖춘 주어와의 공기 여부 등을 살펴봄으로써 앞에서 말한 3 가지 관점에서 바라본 특징들을 기술하였다.

고찰 결과, 종전의 인식적 양태의 관점에 입각한 고찰에서는 파악하기 어려웠던 분석적 형식 간의 차이를 살펴볼 수 있었다. 구체적으로는 첫째, ‘II-ㄴ 것이다’, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 것 같다’, ‘{I-는/II-ㄴ/II-ㄴ} 모양이다’ 간의 차이를 증거성의 관점에서 제시한 점, 둘째, ‘I-는 법이다’의 경우 빈도성의 관점에서 다른 3 가지 유형의 분석적 형식들과 달리 상당히 제한적인 특성을 보인다는 점을 명확히 밝힌 점은 본 연구의 성과라 하겠다.